

# 平成22年度基本方針

福井県教育委員会

福井県教育委員会は、子どもたちは本県のみならず21世紀の我が国や世界を担うかけがえのない存在であるという考えのもとに、個性や能力に応じて子どもたちの可能性を最大限に伸ばす「ていねいな教育」、将来、社会人として自立して生きていくために必要な主体性や社会性を育む「きたえる教育」、「文化・スポーツの振興」の3つを柱に豊かな人間性を備えた魅力ある人づくりを推進します。

なお、施策・事業の実施に当たっては、学校・地域・家庭の連携を大切にしながら、知事部局や市町、関係団体等と十分に連携し、次に掲げる項目に重点を置いて進めます。

## 〔重点実施項目〕

### 1 未来を託す教育

#### ◇ 教育力の向上と文化の創造

##### ・ 福井県教育振興基本計画の策定

教育・文化ふくい創造会議の集大成として、これまでの提言を基に本県がこれから進めるべき教育施策を体系的に示した福井県教育振興基本計画を策定します。

#### ◇ 総合的な学力の向上

##### ・ 「元気福井っ子新笑顔プラン」の推進

平成20年度に定めた県独自の学級編制基準「元気福井っ子新笑顔プラン」を引き続き推進し、全国トップレベルのきめ細かな教育を行う体制を整備して、子どもたちの学力のさらなる向上を図ります。

<「元気福井っ子新笑顔プラン」の概要>

小学校	学年	学級編制基準				中学校	学年	学級編制基準			
		20年度	21年度	22年度	23年度			20年度	21年度	22年度	23年度
小学校	1・2年	40人	40人	40人	40人	中学校	1年	30人	30人	30人	30人
	3・4年	40人	40人	40人	40人		2・3年	35人	34人	33人	32人
	5年	36人	36人	36人	36人						
	6年	36人	36人	36人	36人						

※ 中学校2・3年を22年度は33人学級編成に見直し

##### ・ 小中学生の学力向上の推進

児童・生徒の課題を解決する力や、自ら意欲的に学習する力を伸ばすため、「元気ふくいっ子学力向上センター」を中心に、各小中学校の学力向上プランの推進を支

援するとともに、授業名人など学校の中核となる教員の公開授業などを通して、教員の指導力を高めます。

また、22年度から抽出方式で実施される全国学力・学習状況調査について、抽出から外れた学校についてもこれまでどおり該当学年の全員を対象に実施します。

#### ・ 高校生の学力向上の推進

授業名人等による公開授業や学力分析に基づく教員研修、生徒の弱点を解消するための問題集の作成などにより、教員の指導力向上を図るとともに、県立高校30校がそれぞれの実態に応じて独自に企画する学力向上事業を行い、高校生の学力向上を進めます。

#### ・ 読書活動の推進

国民読書年（2010年）をアピールするための児童向け絵本の原画展や講演会を開催するとともに、県内市町図書館との連携による読書推進キャンペーンの実施など、読書に対する県民の意識を高めます。

### ◇ 心の教育

#### ・ 道德教育の充実

限りなくつながり生かされあい、積み重ねてきた生命の歴史や自分の成り立ちに対する気づきを促し、感謝する心、感動する心、思いやる心など、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育み、人間としての在り方や生き方を考える道德教育の充実に努めます。

小・中学校においては、道德教育推進教師を指名するとともに、道德教育全体計画および年間指導計画を作成し、生命を尊ぶ心の育成を軸として規範意識の向上に努めます。また、集団宿泊活動、自然体験活動、職場体験など体験活動の機会を充実します。

高校においては、新たに道德教育の全体計画を作成し、自他の生命を尊重する精神や規範意識の育成に努めます。

小・中・高校の各段階で、道德以外の教科でも道德的な視点を盛り込むなど教育活動全体を通じて道德教育の推進を図ります。

### ◇ 外国語（英語）教育

#### ・ 中学校・高校での英語指導

A L T（外国語指導助手）を配置し、中学生・高校生に生きた外国語に接する機会を提供することにより、国際社会の中で活躍できる人材を育成します。

また、夏季休業期間中にA L Tを招いて高校生英語キャンプを実施するとともに、英語教員の指導力の向上や授業等の改善により、高校生の英語コミュニケーション能力の向上を図ります。

## ◇ サイエンス（理科、算数・数学）教育

### ・ 分かりやすい理科授業

小学校の理科授業で観察・実験を補助する「理科支援員」を配置し、分かりやすい理科授業を広く行い、理科授業の充実を図ります。

### ・ 「ふくいサイエンス寺子屋」の開催

放課後や長期休業中等に、公民館や児童館など子どもが集まる場所で、科学実験等を行う「ふくいサイエンス寺子屋」を開催し、理科や算数・数学に対する興味・関心を高めます。

### ・ 世界に羽ばたく「実践力」の育成

大学や企業、民間団体などとのネットワークも活用し、世界の最先端科学技術に触れ学ぶ「スーパーサイエンスフォーラム」や理科・数学の応用力や実験力を競う「ふくい理数グランプリ」を開催し、サイエンスに対する知的探究心をより一層高め、国際科学コンテスト等への参加機運を高めます。

## ◇ 職業意識の醸成

### ・ 高校生に対する就職支援

高校生の就職内定率の向上を図るため、増員配置した就職支援コーディネーターと教員による企業訪問や就業体験を実施します。

また、就職した卒業生に対してきめ細かなフォローアップを行い、離職率の低下を図ります。

## ◇ 不登校対策

### ・ 不登校児童・生徒の解消

不登校児童・生徒数の減少を図るため、不登校の未然防止、不登校児童・生徒の早期学校復帰、高校卒業資格の取得の支援を柱とする「福井県版不登校対策」を実施します。

不登校対策指針の策定、子どもたちの登校渋りや遅れがちな学習をサポートする登校支援員など、未然防止を重点とした独自の対策を進めます。

### ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置の拡大

「心の専門家」であるスクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーを新たに定時制高校に配置し、心の悩みの相談や家庭環境への働きかけなど、不登校等の問題に的確に対応します。

### ・ フリースクールへの支援

高卒資格取得が可能なフリースクールを支援し、高校中退者等の自立促進を図ります。

## ◇ 魅力ある学校、教育施設の在り方

### ・ 県立高校の再編整備

生徒一人ひとりにとって最良の教育環境を整備するため、23年度開校予定の奥越総合産業高校（仮称）の施設・設備の整備に着手するなど、県立高等学校再編整備計画に沿って県立高校の再編整備を着実に進めます。

### ・ 青少年教育施設の整備

多様な地域資源や関連する施設を活用した新しいスタイルの体験学習を提供するため、青少年教育施設の整備に向けた基本調査を実施し、必要な施設のあり方を検討します。

## 2 親しみ楽しむ県民文化

## ◇ いつでも身近に福井の文化

### ・ 身近に文化を感じる環境づくりと文化活動の応援

住民自らが、生活様式や景観、歴史、習俗などを見つめ直し、優れた地域資源として後世に残す活動「平成ふくい風土記運動」を全県下で展開します。

文化活動者に日頃の成果を発表する機会を提供するとともに、県民の文化への関心を高めるため、体験を重視した活動や若者が親しめる企画を新たに実施するなど「ふくい県民総合文化祭」を充実します。

また、美術館や博物館をより身近なものとするため、体験機能の新設や企画展の見直しなど、文化施設の改革を進めます。さらに、先進的・創造的な芸術文化活動や地域独自の文化を守り活用する活動を支援し、文化団体や担い手育成等を進めます。

### ・ 子どもたちが質の高い芸術・文化に直接触れる機会の充実

子どもたちの感性や豊かな心を醸成し、福井の文化やふるさとに関する関心や理解を促進するため、県内の小学5年生を対象として本格的な参加体験型コンサートと併せて県立文化施設での体験授業を実施するなど、教育現場と文化施設が連携し、児童・生徒が福井の文化を体験しながら学ぶことができる文化教育を進めます。

### ・ 文化を生かしたまちづくりの推進と産業力の強化

地域の中核的な文化財の整備を集中的に進め、地域の文化遺産を生かした個性的で魅力あるまちづくりや観光への活用を進めるとともに、越前焼など伝統産業の歴史的な価値を明らかにすることにより、文化を生かした観光や地場産業の活性化を図ります。

### ・ 「文字の国 福井」の発信

中国古代文化や漢字研究の分野で偉大な功績を残された白川静博士の生誕百年を記念して、博士の偉業を改めて顕彰するとともに、漢字をテーマにしたシンポジ

ウムを開催し、白川文字学のふるさと福井を全国に発信します。

また、全小中学校で「白川文字学」を活用した本県独自の漢字学習を行うとともに、子どもから大人まで楽しく学べる漢字教室を開催するなど、白川文字学のさらなる普及を図ります。

#### ・ ふるさと教育の充実

郷土の歴史、偉人、自然環境、伝統文化、産業等の学習機会を増やし、郷土<sup>ふるさと</sup>について考え、愛し、誇りを持ち、そして、よりよくしていこうとする心を育むことを通して生き方の大切さが身につくように努めます。

「福井こども歴史文化館」では、子どもたちが、歴史上活躍した人物や、白川静・南部陽一郎両博士、各分野で活躍する達人の生き方や業績など、郷土の歴史文化を学び親しめるよう、調査研究、資料収集を進めるとともに、積極的に企画展、出前教室等を実施します。

### 3 「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援

#### ・ スポーツふくい基金の創設

生涯スポーツの応援と世界に通じる優秀な選手の育成を目的とし、また、第73回国民体育大会および第18回全国障害者スポーツ大会の円滑な運営に活用するため、スポーツふくい基金を創設します。

#### ・ 第73回国民体育大会の開催に向けた準備

平成30年の第73回国民体育大会の開催に向け、国体準備委員会の設置および競技力向上対策の拡充等を行います。

#### ・ 「スポーツ大好きっ子」の育成

スポーツを得意としない児童が、放課後にドッジボールやソフトバレーボールなど身近なスポーツ等を行うことにより、子どもの頃から体を動かす楽しみを感じ、体を動かす習慣を身に付けるよう支援し、スポーツが大好きな子どもの育成を進めます。

#### ・ 生涯スポーツの普及促進

生涯スポーツの普及拡大を図るため、スポーツ体験教室の開催や実技講習会など競技団体の活動を支援します。

### 4 子育ての支援

#### ・ 「放課後子どもクラブ」への支援

地域の実情に応じて「放課後子どもクラブ」を実施し、子どもの安全・安心で健

やかな活動場所を確保します。また、「放課後子どもクラブ」への小学4年生以上の児童の受入れを拡大するため、運営および施設整備に対する助成制度を拡充します。

## 5 安全・安心の確保

- ・ **安全教育の徹底と安全確保活動の支援**

教職員等に対する防犯教育講習会の開催や自動車（青色灯）を利用した中学校パトロールの実施による防犯体制の整備、見守り活動の推進など、登下校時を含めた子どもの安全確保活動を支援します。

- ・ **公立学校の耐震化の促進**

学校施設は、児童・生徒の学習の場であり、地域住民の応急避難場所としての役割をも果たすことから、県内の小・中学校および県立学校の耐震化を促進し、災害時の安全・安心を確保します。

## 6 食育・地産地消の推進

- ・ **おいしいふくい为学校給食の実現**

栄養教諭が中心となり、地場産農水産物を活用した学校給食を通じ、児童・生徒や保護者に対し食育の大切さを伝えるとともに、食育ボランティアと連携し、共同調理方式の受配校に、よりおいしい学校給食を提供します。